

日本精鉱

三硫化の生産能力2.6倍

微粒グレードも追加

三酸化アンチモンの国内最大手である日本精鉱は、アンチモン製品の品ぞろえを拡充する。自動車分野で使う三硫化アンチモンの生産設備を増強。これにより新しく微粒グレードの製品を市場投入できる体制を整えた。生産能力も2・6倍に増やした。純度99・999%(5ナイン)の高純度アンチモンも品質向上を図るための設備を導入。主に半導体分野での販売をめざし製品開発を強化する。

高純度品は開発強化

製造拠点の中瀬製錬所(兵庫県)では、主に中国産のアンチモン地金を原料にして三酸化アンチモンを生産している。三酸化アンチモンは樹脂の難燃助材として、自動車、家電、化学など幅広い産業で使われている。年間生産量の約7000トは国内最大だが、世界生産の90%を占める中国との競合が激しいため、新製品開発を進め、アンチモン事業を拡大させる方針だ。その中の一つが三硫

化アンチモンの微粒グレード。自動車用ブレーキの減摩剤として用いられる。これまでは平均粒径8ミリの製品をラインアップしていたが、新たに最大粒径を制御した平均6ミリの微粒製品を追加した。

中瀬製錬所にはそのための製造設備も導入。既存設備の生産能力は月30トだったが、新設備では80ト生産できる体制を整えた。今後は新設備での生産に切り替え、微粒グレードを使っていく新規顧客を開拓する。

5ナインの高純度アンチモンの開発体制も強化する。すでに製造方法は確立しており、今後は品質を今以上に

高めるための取り組みを加速させ市場投入につなげる。専用工場の建屋も建設する方向で検討。高純度アンチモンは半導体分野や熱電変換素子などの分野で需要が期待できる。